

## 1. 単元名：ファイヤードンス!ー〇〇小・雑技団!

## 2. 単元概要

スズランテープの付いた真っ赤な衣装と赤いバンダナに身を包み、前転・横転・後転・側転…カサを回転させる、リボンやバトンの回転、車椅子や台車を押すとリボンが回転、溶岩を投げ飛ばす、投げ上げる・受け取る、蹴る、全員で大きなシフォン布をバルーンのように揺らす……子どもが「得意な・できる動作」に徹底してこだわり抜いた出し物である。各グループごとに別々に激しいビートのBGM／ライティングを用意することで、子どもが出番を意識して主体的に行動できるように構成した。子どもたちの本格的なパフォーマンス・圧巻の演技に合同発表会において観客は総立ちで拍手!

## 3. 単元目標

- ①回転・投げる・蹴る等の子どもの得意な動きで劇に参加する。(知・技)
- ②炎をイメージした動きを工夫する等、全身で精いっぱい演技する。(思・判・表)
- ③友達・教師と力を合わせて発表会を成功させる。(学)

## 4. 単元の日程計画

午前(10時～11時30分)	午後(13時30分～14時15分)
＜毎日が本番の練習に！＞ ①全体通しての練習 ②パート練習＋個別練習←タブレット・大型テレビで振り返り／動きの確認 ③休憩 ④パート連続練習 ⑤全体通し練習→大型テレビで相互評価 ※上記のユニットを基本に毎日繰り返す	＜演技衣装や道具の制作活動＞ ①溶岩・火の玉づくりー観客席にも投げ込むため大量に必要な。丸めた新聞紙の芯の周りに、危険がないように赤いお花紙を巻いた。 ②バンダナの装飾ーステンシル、スズランテープ、お花紙等で浮遊感 ③衣装や道具に付けるスズランテープを裂く…

## 5. ポイント解説

- ①子どもの尊厳ーダンスや踊り等は多くの子どもたちが「大好き」な活動の一つである。しかし、「演技」として評価した際にはぎこちなさや不器用さが目立つこともある。「出し物」系の活動を創造する一番のポイントは「子どもが確実にできる・得意な動き」を徹底して取り入れることである。体育、音楽、(中／高等部であれば)作業学習の動作…子どもの動きを丁寧に見取り、正に「合わせた指導」の演技として昇華させる。観客に「障害のある子どもだから仕方ない…」と言わせない! 見る者を圧倒し、子どもたちの尊厳を確保することも教師の大切な使命である。
- ②子どもたちの動きを活かす用具・補助具の工夫を徹底して、子どもの演技を支える。
- ③タブレットと大型テレビを活用して、その場で動きを確認し、必要な練習を繰り返した。
- ④運動会・発表会等の取組は「毎日が本番!」という本気の取組が成功の秘訣である。
- ⑤音楽と体育を中心とした生活単元学習として構成。当初は学部集会で発表、クリスマス会ではさらにパワーアップして発表し、2月の地域合同発表会では「公民館のステージ」で演技した。